

平成29年度 嶺北特別支援学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習指導	学習指導要領内容表等を用いて、個々の実態を把握する。個々の教育的ニーズがより反映されるように個別的教育支援計画の書式等を見直し、合理的配慮の観点から、それぞれの計画に基づいた教育実践を推進する。	取組指標ABの合計は87%となり、目標指数80%は達成された。また、成果指標ABの合計は82%となり、目標指数70%は達成され、児童生徒が重点指導項目を概ね達成できたと回答している。取組指標及び成果指標Cは、小学部に比べ中・高等部では若干多かった。昨年度より割合は多少下がったが、個別の指導計画の重点指導項目を合理的配慮を考慮しながら、その目標達成に向けて取り組んでいることが伺える。 保護者の満足度指標におけるE「変わっていない」と回答した保護者は8名で、昨年度より減少し、割合は2%であった。目標指数15%は達成された。学部別では、小学部低学年は0名、小学部高学年は2名、中学部は0名、高等部は6名で総数で昨年度比4名減となった。また、社会生活面での成長を感じている保護者は33%となり、一番多かった。昨年度同様、社会生活面、日常生活面、学習面、身体面の順に成長を感じていた。	どの指標においても目標とする指標は達成されているが、これを継続するためには、以下の4点が大切と考える。 ①学習指導要領内容表(もしくは発達段階に応じた指導内容表)、自立活動内容表(チェック表)など実態を捉えるための諸表の活用を図り、児童生徒の実態を客観的に捉えること。 ②合理的配慮を踏まえた個別的教育支援計画の作成により、継続性のある学部単位の長期目標と、それを実現するための毎年の短期目標を設定すること。 ③保護者との懇談において、個別的教育支援計画や個別の指導計画等を用いて十分な共通理解を図ること。 ④教師同士の十分な話し合いと教材づくり等の授業準備の時間を確保すること。
2 児童生徒 指導	体育大会及び文化祭において、児童生徒の理解に努め、個々の活動意欲を育てるとともに、内容の創意工夫をする。	各学校行事において、ゆとりを持たせ安全で楽しいものとするように企画運営した成果として、教職員からは94%以上が、保護者からは98%が「十分にできた」あるいは「おおむねできた」という評価を得ることができ、目標指数を達成することができた。しかし、「あまりしていなかった」、「全くしていなかった」という評価の方もいたので、今後、より高い評価を得られることを目指し、更に児童生徒の活動意欲を高め、積極的に参加できる活動を企画運営していきたい。	体育大会は、例年通り小中学部と高等部は別日に開催した。特に、本年度は体育館のリフレッシュ工事のため、規模を縮小して金曜日実施となった。例年とは時間や雰囲気も違う中での開催であったが、それぞれの学部の児童生徒が、自分の役割を意識して活動できた。来年は例年通りの実施となるため、児童生徒がのびのびと活動できるように、全校集会等を利用して、更に活動意欲を高めていきたい。また、文化祭では高等部の生徒による準備や後始末も定着し、自主運営によってより充実感を味わうことができています。また、校舎全体を使って様々な企画がなされ、学校中が大いに賑わいをみせた。高等部の製作品や野菜の販売も盛況であった。今後もこれらのことを継続し、児童生徒がより意欲を持って活動できるようにしていきたい。
3 保健指導・食 育	健康や食に関する情報や教材などを提供し、個々のニーズに応じた保健指導や給食指導を推進する。	取組指標、成果指標ともに目標を達成することができた。特に、児童生徒が保健・給食指導を通して、知識を得たり良い習慣が身に付くように意識したりという成果指標については、昨年を上回る結果が得られた。これは、保健・給食の努力目標に応じた教材の紹介や掲示物での啓発、感染症等の予防に関する情報の提供などによる成果であると考えられる。しかし、児童生徒個々のニーズに合わせた指導を行うために取り組みやすい環境作りは今後の課題であると考えられる。また、保護者の評価については昨年から2%下がったものの、目標を達成することができた。	毎月の保健・給食努力目標についての取組は、教材を整理、検討した上で、メールでの紹介や校内放送、掲示物で啓発を行うとともに、取組状況の確認やアンケートなどを行いながら進めていきたい。また、歯磨きや手洗い、うがいなどの基本的な生活習慣の指導や性に関する指導などについては、養護教諭が担任と協力しながら各学級での保健指導の機会を増やしたり、教材や指導法を蓄積して紹介したりするなど、個に応じた指導ができるようにしていく必要がある。 保護者に対しては、学校での取組について保健だよりや給食だよりで紹介するとともに、ホームページでも積極的に発信していきたい。
4 研究研修	児童生徒のニーズの把握を基に適切な最近接の課題を設定し、指導を行う。	取組指標の「有意義な研究になるように研究活動に協力することができたか」に対しては94%、成果指標の「最近接の課題を設定することの大切さを理解することができたか」に対しては96%とそれぞれ目標の80%を上回った。更に回答を「十分にできた」「おおむねできた」に絞るとそれぞれ69%・73%となり、今年度からスタートした新テーマに基づく研究への理解が進みつつあることがうかがえる。高等部については、取組指標・成果指標ともに「できなかった」と回答した教員が数名いるが、全員が参加したわけではないのでそのことが数字に表れたものと考えられる。 保護者評価による満足度指標については、96%が「児童生徒の実態やニーズに合った授業をしている」と答えており、目標の90%を上回った。	今年度の研究から得られた成果を振り返り、整理したものを全教員で共有し、来年度の研究につなぐようにする。また、各クラスあるいは各グループで1事例取り上げるなど、全教員が研究に関わっているような体制を作っていくことで、テーマについて日々考え、研究が深められるようにしていきたい。
5 家庭連携	日頃から保護者との連携を密にし、保護者懇談会や各種行事への参加を働き掛けて、更に意思疎通を図る。	教職員対象である「保護者への働き掛け(PTA行事や各事業、会議への参加を働き掛ける)」という項目は、目標指数60%を大きく上回る78%であったが、昨年度より7ポイント減少した。保護者との事務的な連絡で終始することなく、日頃から教職員が積極的に働き掛け、事後のフォローにも気を遣うことが望まれる。 具体的な各行事について、それぞれ昨年度と比較すると、「親子レクリエーション」は昨年に引き続き校外での活動となったが、昨年並みの参加者があり好評を得た。また、嶺北親の会との合同企画で実施された「くらしを考える会」も、保護者のニーズに沿ったテーマにしたことで、大好評であった。「おやじの会」も昨年度から親の会との合同企画としたが、貴重な情報交換の場となっていることは勿論、親睦を深める場にもなっており、今後も期待できる行事と考える。 一方、「協力関係や理解を深めることができた」という項目については、教職員と保護者では感じ方にズレが生じていることが分かった(保護者76%、教職員95%)。この意識のズレは、学部が進むにつれ大きくなることから、保護者のニーズが学部が進むにつれ多様化し、それらに教職員が十分に答えられていない結果とも考えられる。	平成23年度から本校を会場に行ってきた「親子レクリエーション」であるが、昨年度に続き今年度も校外での実施となった。校内のリフレッシュ工事が数年続くため、しばらくは校外での活動を考えている。また、このレクリエーションは、今年度から夏冬の2回実施が復活した。これにより、「近場で、少ない負担で参加したい。」という保護者のニーズにも対応できた。今後も保護者のニーズに耳を傾け、多くの人が参加しやすい行事を企画していきたい。 一方、各種会議への参加については、未解決の課題が山積している。平成24年度に改定された会則「3年に1回は役員または委員を担当する」であるが、役員となっても各種会議や行事に参加できない保護者は多い。「分かりやすいPTA活動、参加しやすいPTA活動」となるように声掛けにも工夫が必要である。また、これを保護者にイメージしてもらえよう、学級担任とも協力しながら、日頃から働き掛けを工夫する必要がある。加えて、平成32年に県知事事務局が本校になるため、それを見据えた体制作りについても、今後整えていかなければならない。 保護者との協力関係における意識のズレを解消するためには、PTA活動の必要性を多くの保護者に感じてもらうとともに、保護者との信頼関係を深める工夫も考えていかなければならない。また、保護者への効果的な働きかけを渉外部でも研究・提案することで、少しでも両者のズレを小さくしていきたい。
		取組指標:授業参観の1・2学期の参観率は全体で57%になり、目標指数45%は達成した。参観率を学期毎に見ると、1学期の参観率は60%、2学期の参観率は55%で、1学期は、昨年度より4%増加し、2学期は2%減少した。今年度は、1学期に小中学部対象の進路説明会が行われたので、小学部高学年及び中学部の参観率が9%～15%伸びた。 各学部学年の参観率をみると、小中学部は70%～90%近く参観者がいるが、高等部になると1年生でも50%台になり、2年生で30%台、3年生で1学期は10%台になった。しかし、2学期に進路セミナーが同日開催されたことにより、40%台に回復した。高等部は他学部と比較すると、例年低い数字となっている。	年度始めに、年間学校行事予定を保護者へ知らせ、予定を組み入れやすいようにしている。また、例年、2学期のみ進路指導部行事と同日開催を行い、中学部及び高等部の参観者が増えていたのので、今年度は1学期にも小・中学部対象の進路説明会を同時開催した。このことにより、1学期には小学部高学年及び中学部の参観者が増えた。来年度も継続して開催してほしいと考える。 授業参観は、児童生徒の活動や成長の様子を見る良い機会として、今後も学期末に実施し、また、子どもが所属している学部だけでなく、他学部の児童生徒の実態や授業状況を知ってもらう機会としても重要であることをお知らせなどで周知していきたい。

6 進路指導	児童生徒一人一人が自ら進路選択ができるよう、授業や行事などにおける進路学習の充実を図る。	<p>「取組指標」で将来の生活について児童生徒・保護者の関心が高まるよう授業や行事を「工夫した」とする教職員は、93%、「成果指標」で児童生徒・保護者の関心・意欲が高められたとする教職員は、85%、「満足度指標」で関心・意欲が「高まった」とする保護者は、87%となり、どの指標も目標を上回った。</p> <p>保護者には、進路説明会、企業施設見学会、各セミナーへの参加を促したことによって、参加者数の増加につながった。今年度から、進路通信をクラスに掲示することによって、生徒や教員の意識が高まるようにした。</p> <p>また、高等部では、1年生の校内実習を「進路学習」に変え、高等部での進路学習内容や卒後の主な進路先を知るというねらいに絞り、進路学習ファイルの活用が定着するように意識した。担任の方でも、クラスでの指導の際には、進路学習ファイルの活用を意識して指導に当たったようである。</p> <p>一方、関心・意欲があまり高まらなかった保護者がいることや、小学部では、進路選択はまだ先ということから、取組指標の高さに伴った成果は見えにくいことがあげられる。</p> <p>今後も、進路学習の内容や結果を、生徒・保護者・教職員で共有できるように引き続き取り組んでいかなければならない。</p>	<p>引き続き、現場実習については、実習評価表をしっかりと活用する。振り返りのときには生徒の課題を明確にし、次の実習先選びに役立てる。その際、生徒・保護者・教職員の共通理解できるように努める。現場実習報告会では、先輩の実習報告を聞くことで学ぶことが多いので、他学年の生徒も参加するように促す。</p> <p>保護者には早くから進路について情報を得てもらうために、今後も進路説明会、企業施設見学会、各セミナーへの参加を促す。進路先一覧・進路説明会資料・進路のしおり・進路通信等は、学校HPで公開しているので、なるべく更新を早めて、保護者にも閲覧してもらえようと呼び掛ける。</p> <p>教職員に対しても、企業施設見学会、各セミナーなどの進路指導に関する行事への参加を呼び掛け、啓発を進めていく。</p>
7 特別支援教育	参加者のニーズに応じた学校公開を開催する。	<p>今年度目標を変更し、「学校公開」に関することとした。その結果、「取組指標」「成果指標」「満足度指標」すべてにおいて、目標指数を達成できた。学校公開後のアンケートにおいても概ね高評価が得られた。</p> <p>「学校公開」は特別支援学校を進学先にと考えている保護者を主な対象とし、小・中学部の公開を2日間、高等部の公開を2日間計4日間行った。更に、高等部の公開については地域の中学校の生徒についても参加が可能としている。これらのことにより、対象の方が必要としている情報を提供することができ、満足度の高い学校公開になったのではないかと考える。</p>	<p>高等部の学校公開において、地域の中学生についての参加を可能としてから3年になる。生徒らは担任もしくは保護者と共に参加している。昨年度から質疑応答の時間は中学生のみ別室で過ごしている。大勢の参加者の中では言い出しにくい質問もしやすくなり、生徒らは疑問に感じた点や不安に思っていることなどについて思い思いに発言していた。質問には、本校教員が応えるようにした。よりニーズに応じた学校公開にするために、校内の見学の際など質疑応答以外の時間についても、グループ分けの方法や説明の仕方などさらに工夫していくと良いと思われる。</p>
8 情報公開	行事の様子や各部の取り組みをホームページ上で紹介し、地域社会や保護者の学校に対する理解を深める。	<p>「取組指標」「成果指標」共に目標を達成した。</p> <p>「取組指標」については、7割が複数回の更新をしているとの回答があり、学期ごとのデータ更新が概ね実現されていることがうかがえた。</p> <p>「成果指標」については、A+Bの割合が昨年と同程度であり、ホームページによる本校の理解促進に一定の評価がされていると思われる。</p> <p>「満足度指標」については、「ホームページの閲覧」において、Cの「全く見なかった」の割合が昨年比べて増加していたが、目標を達成することができた。</p> <p>「ホームページの内容」については、昨年度よりもA+Bの割合が増加しており、内容について一定の評価が得られたと考える。</p>	<p>ホームページの更新については、学期に1回のペース(年に3回)での更新を目標としているが、3回以上更新している部署はまだ少ないことがうかがえた。各校務部や各学部に運営を任せられているが、部署によって更新頻度にばらつきがあり、今後は定期的な更新を促す体制作りを検討しつつ、引き続き、新鮮な情報の提供に努めたい。</p> <p>保護者がホームページを「まったく見なかった」割合が増えている原因については、ここで明らかにすることはできないが、内容に一定の評価が得られていることを見ると、保護者がホームページの存在を知らないことも考えられるため、引き続き地道に保護者への周知に努めたい。</p>
9 寄宿舎生活	個別の支援計画に基づいて、子どもを主体とした「夏まつり」や「クリスマス会」などの行事に取り組む。	<p>寄宿舎指導員へのアンケートの、「取組指標」を見てみると、個別の支援計画に基づいて行事計画を「十分に、または、ある程度考えた」という回答が93%に達した。「成果指標」でも、寄宿舎生が「とても、または、ある程度主体的に活動できた」とする回答が97%に達しており、これらについては、80%の目標を達成することができた。</p> <p>次に舎生の「満足度指標」では、夏まつりやクリスマス会などの行事が「とても楽しかった、または、まあまあ楽しかった」とする回答が、昨年と同じく100%となり、目標の70%以上を達成した。</p> <p>保護者の「満足度指標」においては、子どもが寄宿舎の行事を通して「とても成長している、または、まあまあ成長している」と回答した人が、目標の70%以上とはいえ、昨年の97%から、83%へと減じ、一方で、子どもが「あまり成長していない、全く成長していない」との回答が、中学部のごく一部と高等部で昨年の3%から16%へと増えている。この結果については、年度末の保護者との懇談や、日頃の連絡帳等を通して、改善点を探っていく必要がある。</p>	<p>ここ数年、学校評価アンケートの数値は、どの指標もある程度、高い数値の達成率が出ていて、際だった変化は見られない。</p> <p>そこで、寄宿舎が元々担わなければならない役割や、取り組みをもう一度見つめて、来年度以降について、スクールプランの「重点目標」と、「具体的取組」を見直していきたいと考えている。そして、それに基づいた新たな、「取組指標」と「成果指標」・「満足度指標」を提案し、学校評価アンケートに反映していきたいと考えている。</p>